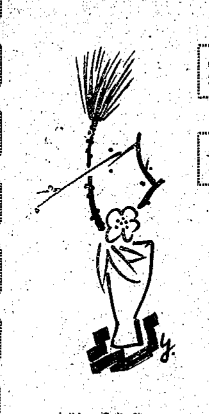
婦人



カット・横山精一

市の青年学級

学ぶ十五学級五百名 盛んな部落、振わぬ市部 今後は町内部落単位に

青年学級振興法がうまれてから満二カ年になるが、市の青年学級はどうなつているか。これはその現状と展望であるが、公民館では勤労青年男女の入級を切に望んでいる。（新津市立公民館）

市の青年学級は公民館各分館で開かれ金津・小合など新市域をあわせて十五学級、これに学ぶ男女青少年五百名、講師は百名を超えている。これらはいずれも国庫補助の対象になつているが、農村部落にゆくほど盛んで、市街部は低調である。

なお十五学級のうち本格的な学習に入つていないところも一～二カ所あるので、今冬を期して大いに振興したいとその計画をすすめている。

青年学級は戦前の青年学校と全くちがい学級生も運営に加わつて希望や意見をのべ、それを生かして学習をすすめるという民主的な学習方法がとられ月謝その他経費不要で、基礎教養の向上、職業知識の習得、問題解決の知識の練磨に努めているわけで、市周辺部落では毎年十二月から三月まで、一般教養百時間、職業科二十時間、家庭科三十時間以上を消化し、四月から十一月までを開放講座として月二回程度の時事解説・講演・学習などで通年制を堅持している。これは部落方面では職業が分化しておらず、大部分が農業であるために確実に継続的に行うことが出来るので、市街地に近ずくに従つて職業が雑多となり、一定の休日や一定の自由時間をもたない関係から学級開設が困難になつてくる。

それで市街地ではこれに代つて専門講座で充足させている。すなわち洋裁・生花・芸能・体育R簿記珠算など希望によつて行つている状態。市の末端では未だ女子の家庭科生花・作法・包物などで終始して一般教養をやつていないが、このなかには次第に一般教養的なものを取込みながら行つているところもある。

以上が実態のあらましで法通り規則正しくやつているもの十二学級、胎動のなやみを続けながら一部学習のもの三学級となつている。

今後の青年学級の振興については、公民館分館を拠点とした各地区の青年連合体の結成もみているので、それら青年団体の事業とも協同して行い、学習の場も町内部落単位にし、例えば結第一青年学級を川口教場、結教場としているように、出席し易いようにする。これには最近市ノ瀬第二青年学級を覚路津教場と三枚潟教場に分けたが、このようにして極力振興を図つてゆく。

なお青年学級の授業担当講師（中小学校教諭が大部分で、主事は十五学級中十四学級までが有資格者である）の労苦もたいへんなもので、深夜猛吹雪を衝いて遠距離授業の学級もあるが、よくその任を果しており学級発展の礎石ともなつている。

因みに二十九年度全国青年学級は一七、五九一学級、これに学ぶ学級生は一、〇六四、二六九人に及んでおり、いずれも中学卒業生から三十才未満の勤労青年である。

三枚潟に青年学級

市之瀬青年学級では十二月三枚潟、長割の青少年を対象に三枚潟教場を開講。教場は部落青年会場。これで同青年学級は市之瀬、覚路津とも三教場となつた。

図書館30周年記念式典

新津市立記念図書館の創立三十周年記念式典は一月下旬同館で挙行。創立以来の寄付功労者、永年勤続者の表彰を行う。記念事業は特に行わず読書グループの代表者による図書館の読書運動についての懇談会を開く。

而立

桐生栄

「而立」とふ年に至れり子育ての月日あはたゞしく往かしめてわれ

美醜のことに関りて生くる齢過ぎぬ命を深く何にひそめむ

（歩道・新津短歌会員）

元朝

鈴木伸枝

門口に庭の小枝はあざやかな影を映しぬ旗掲げおれば

白墨の粉を弾きて教室に机ひわるるするどき音す

（新津短歌会員）

娯楽、教養が大部分 ふえた婦人の読書

少い"仕事のための調査"

読書調査にみる図書館利用

市立図書館では十一月初めの読書週間に利用者六一五名に対して読書調査を行つたが、婦人利用者は二四一名約四割を占め年々増える傾向が見られ、他府県の二割に比べ倍の利用率で係を喜ばせた。多くの図書館が学生生徒だけの利用で悩んでいる時、新津市の調査で一般職業人の利用が二〇一名三割二分で他府県を六分程上廻つているのは〔除々に一般市民の図書館に変りつつあることがわかる。しかし利用者が図書館まで来るのに要つた時間では、十五分以内の者が七割二分、三十分以内の者が一割七分で、図書館に行くのに三十分以内の者が九割を占めている。他府県では六割二分に過ぎず、図書館の奉仕が近い距離の人に限られており、今後は利用者が来るのを待つやりかたから、利用したいが出にくい人まで本を届ける配本奉仕を考える時期になつたことがわかつた。

図書館を利用する目的では「娯楽趣味のため」が二割九分、「一般教養を高めるため」が二割八分で大部分を占め、ついで「宿題を調べるため」が一割三分、「受験勉強のため」が一割三分、「場所を借りるため」が一割一分、「業務上の調べもののため」が僅か四分である。新津市では娯楽趣味を求めて図書館を利用する者が特に多く、他府県の二倍半もあるが、比較的に多く用意している調査用図書を利用する者が二十五名に過ぎない。

「あなたがいつも読む本は大ていどこから手に入れるか」という調査では、「買う」と答えた者は二割六分で、他府県の半分に当り、反対に「公共図書館から借りる」と答えた者四割五分、「友人知人から借りて読む」と答えた者二割五分で、他府県の各倍に当る。「貸本屋から借りて読む」と答えた者は九名に過ぎなかつた。これは新津市では、書店から買う人は余り図書館を利用しないのか、或いは図書館利用者の多くは買うところまで手がとどかないのか、「友人知人から借りて読む」者が四分の一も占めて自然に読書網が出来ていることと合せて考えて見たい。（市立図書館）

家庭の栄養は計量器からと満日学級家庭科女子の計量器講習

管をナワで巻く

水道の凍結予防

これからの一月、二月は特に寒く、夜間は気温が0度以下になると、外にろ出している水道管や蛇口が凍り、中の水が氷となるときに体積がぼうちようして、管や蛇口に亀裂が入つて破れつするので、次のことに充分注意して凍結防止につとめてほしい。（ビニール管は抵張力に乏しく鉛管に較べ割れやすい。）

▽水道の凍結予防△

(1)外部にろ出している水道管を熱の不良導体（ワラ・ナワ・ウール等）で巻き、外冷気を直接水道管に触れさせないようにすること。

(2)水道管を木箱で覆うこと。

(3)天気予報に注意し、夜間ことさら冷える注意のあつたときは、台所・便所・洗面所等の保温につとめ、室内温度が0度以下に降らぬよう努力すること。

▽蛇口や水道管を凍らせた場合、これをとかすときの注意△

(1)ぞうきんを予めお湯であたため管や蛇口に巻きつけ、熱湯を徐々にそそぎかけること。

(2)蛇口の下に七りんや火鉢を置き、遠火であたため自然にとけるのを待つこと。

▽凍つた場合、とくに注意を要する事項△

(1)熱湯をちかに管や水栓にかけると、ピンと破れつするから、これは決してしないこと。

(2)凍結を放つておくと水は管の奥へ奥へと凍つてゆくから、なるべく早く前記の処置でとかすか又は手に負えないと思つたときは一刻も早く水道課（昼間―五五〇番、夜間―五五二番）へ連絡し係員の派けんを求めること。（水道課）

不良体温計一割

体温計、血圧計検査結果

体温計、血圧計の検査は、去る十二月五、六の二日間県計量検定所から技術員が出張、記念公会堂で行われた。医師・助産婦の外一般からも多数受検申込みがあつたが、その検査結果は次の通りで、体温計は一割、血圧計は三割の不良品があつた。一般には水銀が切れていたり、いくら振つても水銀が下らなかつたりするものだけが不良体温計だと思つている。今回の検査の結果ではその外に体温計のガラスの中に含まれているアルカリ分が、体温計を永い間使つていると溶けて管を細くし、そのために標準温度より上り過ぎたり、又は標準温度まで上らなかつたり、素人には目につかない狂いを生じていることが分つた。今後もこうゆう検査が行われるのでそのときは是非多数の人が検査を受けられるようおすすめする。（保険課）

	受検数	良	不良
体温計	二六〇本	二三八本	二二本
血圧計	三〇カ	二〇カ	一〇カ

金津地区視聴覚研究会発足

視聴覚教育は社会教育上大きな役割を担つているが、金津地区の映画技術者が団結して視聴覚研究会を組織、旧臘十一日支所で発会式を挙げた。地区の技術者十六名がその中心で、今後の視聴覚活動、技術の研修会等を毎月開催し、市や公民館金津分館と表裏一体の活動をする。

役員の詮衡や会則は近く決定、純然たる民間団体として、全市の映写技術者クラブとも連絡を密にし、同地区の視聴覚教育の浸透をはかるが今後は市の視聴覚教育の一翼を担うというもの。

民謡道場生る

松坂協会で

新津松坂協会は会員の精進により年を追うて発展、陣容も充実を加えつつあるが、最近はとくに各地出演の回数もふえ、昨年は百三十八回という最高記録をだしたほどで手もまわりかねるのと、"松坂"の普及徹底をはかるために協会内に民謡部を設置、研究生の募集をはじめた。松坂のほか各種の民謡も教える民謡道場で、この指導には協会指導員があたるが多数の入会が望まれている。申込みは四ノ町呉井方松坂協会事務所へ。会費は未定。

県民謡協会設立

新津に事務所

県内民謡団体は約三十団体あるが、これらを[illegible]、郷土民謡の振興と横の連絡をはかろうと新津松坂協会をはじめ加茂三条、[illegible]などの民謡団体が発起人となつて十二月九日民謡協会が設立された。

県内民謡団体の大同団結はこれがはじめてで、今後の活動が期待されるが、会長は岡田正平氏で、副会長二、常任理事、理事、幹事という役員で、常任理事は上中下越など地区別に選任するほか、各市長を顧問に予定している。一月二十日頃第一回総会を開き、陽春四月にははなばなしく発表会を行う。事務所は市内松坂協会事務所内。

小合地区

地区農業委員
委員長 佐藤重造
委員 斎藤新一
委員 高橋健吾 栗原祐一 徳永平作 江口安太郎 本望美乃利 佐藤新一 土屋虎三郎 伊藤寅一 高野銀次 上田彦衛 山田正平 清水五郎 小田宏 寺尾佐門太 長谷川三郎 鈴木悦作 阿部作平 吉田京助 石黒早雄